

# 医療通訳研修

## 「専門医療通訳者養成コース2014」を開催

昨年12月13日、一般財団法人日本医療教育財団とNPO法人多文化共生センターきょうととの共催による「専門医療通訳者養成コース2014」がスタートした。

本コースは、厚生労働省の『医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業』によって作成された医療通訳育成カリキュラムとテキストが使用されている。これを使った研修が行われるのは、全国でも最初であり、これからの医療通訳養成のスタンダードになるものとして、医療機関や医療通訳団体をはじめ、関係各方面からも高い関心が寄せられている。

対象言語は、英語・中国語・ポルトガル語・スペイン語の4カ国語。3カ月間の研修期間で、医療機関での通訳に必要な「知識・技術・倫理」に関する専門的な知識と技術の修得をめざす。

研修初日の12月13日、会場である東京・御茶ノ水の中央大学駿河台記念館には、各地から多数の受講者が参加。オープニングでは、日本医療教育財団の池田正明専務理事が、『医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業』の実施団体として、「医療通訳育成カリキュラムとテキスト」が作成された目的や経緯を紹介し、今回の研修会に寄せる期待を述べた。

また、多文化共生センターきょうとの重野亜久里理事長は、医療通訳の養成や派遣などに関する10年以上の取り組み、医療通訳者の果たす役割などを語り、多年の経験に基づく有益な話に、受講者は熱心に聞き入っていた。

専門医療通訳者の養成は、今その第一歩を踏み出したところだが、外国人患者の受入れに欠かすことのできない存在として、今後の活躍に期待したい。

### 専門医療通訳者養成コース 【カリキュラム概要】

#### ○医療通訳研修Ⅰ

1. 医療通訳の役割
2. 言語プロフィール
3. 専門職としての意識と責任（倫理）
4. 身体の仕組みと疾患の基礎知識
5. 検査に関する基礎知識
6. 薬に関する基礎知識
7. 感染症に関する基礎知識
8. 通訳に必要な通訳技術Ⅰ

#### ○医療通訳研修Ⅱ

9. 日本の医療制度に関する基礎知識
10. 通訳に必要な通訳技術Ⅱ
11. 医療従事者と患者の文化的および社会的背景についての理解
12. 医療通訳者のコミュニケーション力  
医療通訳者の自己管理
13. 通訳実技
14. レポートの作成と終了評価試験

